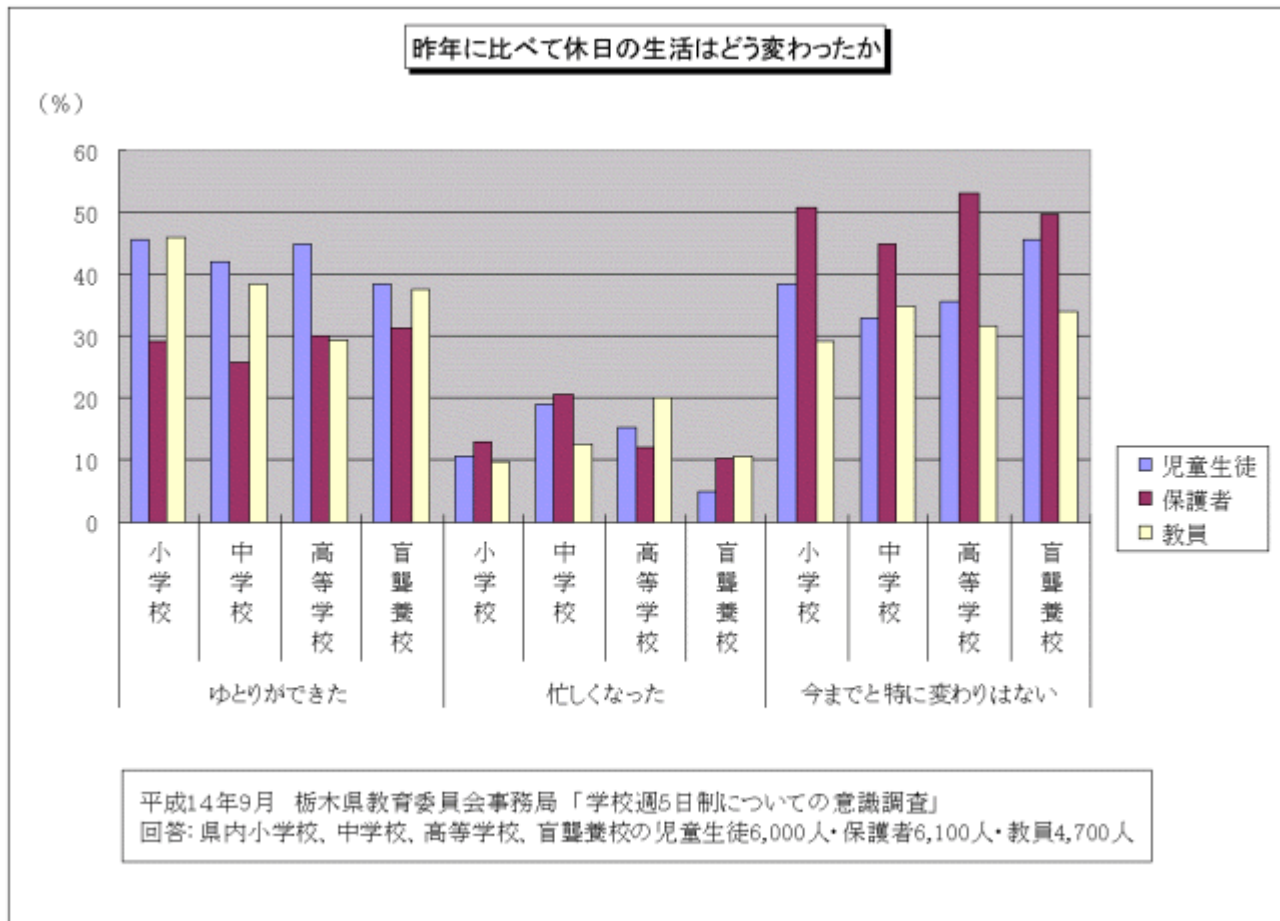


Ⅱ 完全学校週5日制に関する各種アンケート調査結果の分析と課題の整理

1. 完全学校週5日制に関する意識・実態調査の概要

(1) 児童生徒、保護者の意識・実態について

《 図1 》 完全学校週5日制が始まってからの休日の生活の変化



子どもたちの生活にゆとりを感じていない保護者

5日制が始まってからの休日の生活について、児童生徒は、各校種平均すると42.8%が「5日制が始まって生活にゆとりができた」と感じている。一方、「今までと特に変わりがない」と感じている児童生徒も38.1%おり、特に中・高校生においては、逆に「忙しくなった」と感じている生徒も17.1%と少なくない。また、教員にも児童生徒と同様の傾向が見られる。

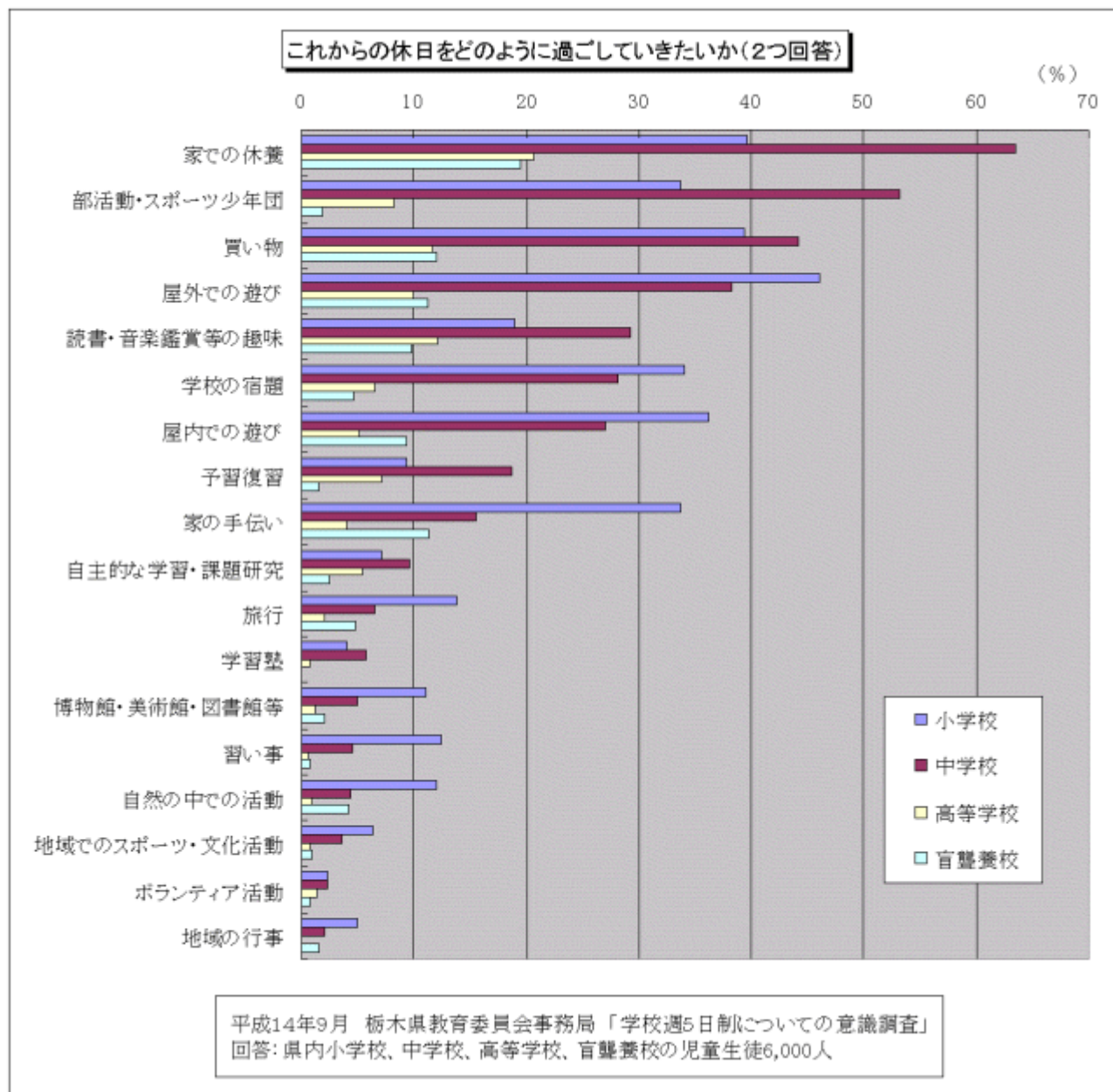
保護者においては、「今までと特に変わりはない」、「忙しくなった」と感じているを合わせると60%を超える。

休日の土曜日は、「部活動」と「遊び」が中心

5日制実施後の小学生・中学生の土曜日の過ごし方をみると、「部活動（スポーツ少年団を含む）への参加」が最も多い。次いで、「遊びや趣味」「テレビ・ゲーム」「休養・ゆっくり過ごす」等が多い。

反面、「地域の行事や体験活動への参加」「公共施設の利用」は少ない。

《 図3 》 児童生徒の希望する休日の過ごし方



関心が薄い「ボランティア活動」や「地域の行事」

児童生徒のこれからの休日の過ごし方については、小学生で「屋外での遊び（４６．０％）」「家での休養（３９．６％）」「買い物（３９．３％）」「屋内での遊び（３６．３％）」「スポーツ少年団の活動へ参加（３３．７％）」「家の手伝い（３３．７％）」等が上位を占めている。

中学生では、「家での休養（６３．４％）」「部活動（５３．２％）」「買い物（４４．２％）」「屋外での遊び（３８．３％）」が多い。

高校生・盲聾養校生においては、あらゆる活動に分散しており、中でも「家での休養（平均して２０．１％）」「買い物（１１．８％）」「読書・音楽鑑賞等の趣味（１１．０％）」「屋外での遊び（１０．６％）」が多い。

また、各校種にも共通することとして、「地域でのスポーツ活動」「ボランティア活動」「地域の行事」等の参加への希望が少ない。